

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4079700201		
法人名	医療法人 上野病院		
事業所名	グループホーム あがの		
所在地	田川郡福智町上野2678-1		
自己評価作成日	平成29年7月1日	評価結果確定日	平成29年8月3日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートうりずん
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号
訪問調査日	平成29年7月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「ゆったりと、楽しく、自由に、ありのままに」をモットーに、無理強いしない介護、笑顔で楽しく過ごせる楽しみの共有を目指しています。
利用者介護スタッフという関係ではなく、ホーム全体を一つの家族と考え、皆さんが落ち着ける環境づくりを目指し、スタッフ自身が楽しめ、お互いが笑顔になれる関係を心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

今春就任した管理者は、運営理念を具現化したケアの方向性を全職員で共有したいと、定例会議や日々の申し送りなどの様々な機会で見解を交換している。職員に見守られ掃除機で居室を清掃したり、廊下の天井から下げたトイレの矢印を見てトイレに行く入居者もあり、理念の残された力での暮らしを全職員で支援している。近隣の母体医療機関や訪問看護事業所との連携で、心身の変化にタイムリーに対応し、入居者や家族の意向を重視した終末期ケアに取り組んでいる。地域敬老会の参加、近隣小学校からの七夕飾りの贈呈が恒例となり、地域から続けてほしいとの要望のある夏祭りは8月5日に開催予定で、ホームが地域に溶け込み介護サービスの拠点となる中、雇用の安定を図るために賃金体制の見直しも予定され、働きやすい環境づくりに努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

ユニット/
事業所名 **グループホーム あがの(南棟)**

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員は理念を共有し、入居者がその人らしく生活できるよう支援に努めている。	外部評価受審を好機として、理念をどのように理解しているかを話し合っている。管理者からは、様々な機会を通じて、文言を理解しながらケアの方向性を全職員で共有したいと、率直で謙虚な感想があった。	理念の5. 暮らしのあらゆる場面で、冒頭に掲げるなどの工夫で、理念をより具現化したケアの実践を期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	職員は常日頃から友好的な態度で近隣の方に接している。ホームの行事には参加を呼びかけ様々な場面で交流を持っている。	老人会からの案内で昨年は入居者2名が敬老会に参加したり、今年も近隣の小学校から贈られた七夕飾りを玄関を飾っている。恒例夏祭りは地域から続けてほしいとの要望を受け、8月5日に予定している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等を活用し、事業所の理解、認知症の理解に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の規則を作り、2か月に一度定期的に会議を行っている。事業所での様々な事が報告される中で色々なアドバイスも頂いている。	老人会会長、地区民生委員、各ユニットの家族代表の出席で、定期的に開催されている。家族代表の他所で介護に従事されている方から、日頃のケアでできている所等を具体的に指摘いただくなど、貴重なアドバイスを受ける場にもなっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に役場職員の方に参加して頂き、様々な意見を求めている。参加者の様々な質問から町としての方向性等理解が深まっている。	新任の介護計画作成担当者の介護支援専門員を町の担当者に紹介したり、居室の空き情報を提供している。開催には至らなかったが、認知症カフェ開催の相談を受けた事もあるなど、日頃から情報交換に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを作成し、身体拘束の廃止に努めている。年に最低一度学習会を行うようにする。	離床センサーを使用している入居者もあり、研修会を開催し、身体拘束の具体的な内容や「待つて」や「だめよ」など言葉も拘束になることを職員に周知している。以前夜間のみならず日中も外部者の侵入があったため、玄関は防犯のために施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルを作成し、虐待の防止の徹底を図っている。年に最低一度学習会を行うようにする。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	まだまだ研修等はできていない。今後研修会を行い全職員が理解できるよう努める。	成年後見制度を利用されていた方が逝去され、現在は制度や事業の活用はない。今後はさらに家族関係の多様化が予測されることから、制度や事業についての研修を予定している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結ぶ場合前もって十分な理解が得られるよう時間を作るようにしている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族がなんでも相談しやすい雰囲気づくりに努めている。ご家族の方も意見等言いやすいように来園時にはいろいろとお話をするように努めている。	4月早々に開催した家族会は、17名の参加があり、運営推進会議の報告や年間行事の映写会をしている。入居者と共に昼食を摂っていただき、家族だけで話し合う場も設けているが、家族からの意見は少ない。今後は、家族とコミュニケーションが上手な職員に相談役を担ってもらうことも検討している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	現在職員の意見や提案を聞く場を設けることができていない。今後職員間での意見や考えがスムーズに反映できるような体制づくりや雰囲気づくりに努める。	定期的に全体会議やユニット毎の会議を開催し、職員間の価値観の相違を認め合いながら、日々の気づきなど率直な意見交換に努めている。職員の要望もあり、腰痛緩和に配慮して、入浴リフトの導入を検討している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	現在給与水準や労働環境の向上に努めているが実現できていない。それらが実現できるよう整備に努めていきたい。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集、採用は年齢・性別・経験等を問わないようにしている。現在新規採用がなかなかないが今後もその考え方は変えない方針である。	開所以来就業している職員や、施設実習後や近所在住で介護に興味があり入職した職員もいるが、離職もあり新規雇用が課題となっている。雇用の安定を図るために、賃金体制の見直しも予定されている。休憩室で休みを取り、職員同士の協力で希望休や有休の取得、法人主催の慰安旅行や年間レクリエーション大会への参加を促すなど、働きやすい環境を整備している。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	役場の学習会等に参加していき、またそれをホーム内研修を通して全職員での取り組みに努める。	町主催の人権研修会への参加を予定している。日々の申し送りなどで、管理者が入居者への声かけに注意を促すなど、人権教育に日頃から取り組んでいる。	介護従事者の人権研修は必須のため、保険者等が開催する人権研修参加をお願いします。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	現在人員不足もあり外への研修等ができない状況がある。それらを解消し研修を受ける機会を確保していきたい。また月一度行われるホーム内研修は継続していきたい。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	現在福智町にあるグループホーム協議会に参加し交流等をおこなっている。様々なネットワークづくりを行いサービスの向上に役立てたい。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人とコミュニケーションを多く持ち、理解するよう心掛けている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との良好な関係を意識し、関係作りに努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時点においては、管理者、介護支援専門員と共に御家族の要望を聞き取りスタッフとの話し合いを設け理解を深めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者主体の介護に努めている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者主体でありながらも御家族の要望も聞き出せるような関係作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	人手不足の為、出来ない部分が増えてきている。	地域からの入居者が増え、ホーム内での交流は日常で、老人会主催の敬老会やホーム主催のクリスマス会、近隣小学校から贈られる七夕飾りも交流の場となっている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係政党を把握しながら、食卓等共用スペースの場等においても良好な関係性が保てるよう配慮している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後等も関係を断ち切らず、行事等の参加の声掛けを行い、出来る限り支援できるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段から利用者と話をする機会を多く持ち、本人の意向に沿えるよう努めている。	センター方式のアセスメントシートを活用し、入居者の思いや意向を把握し、経過を把握しやすいようにアセスメント毎に印字の色を変えて書き込みをしている。	定期的なミーティングで共有した思いや意向をシートに整備し、さらなる意向等の把握を期待します。
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人から話を聞いたりアセスメントに目を通す等し、スタッフ間で情報交換している。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	スタッフ間での情報の共有や、記録の活用等を行い現状を把握するよう努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフ間では常に情報交換し意見を出し合っているのをそれを反映する様に努めている。	プロセスに沿った介護計画の作成や定期的なモニタリングを実施し、計画の見直しをしている。職員に見守られ掃除機をかけた時、廊下の天井から下げたトイレの矢印を見てトイレに行くなど、残された力での暮らしを全職員で支援している。	理念の7項目を具現化したケアを実践するために、今できることや行っていることを継続できるように、日々支援しているとの理解を深められることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録を基に情報の共有を行い日常介護に反映している。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御家族や利用者の希望に沿えるように、通院介助や外出等努めているが、まだまだ対応が不十分だと感じる。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	少しずつ地域に根付いた活動が出来ており、近くの小学校や地元の老人会等との交流も、定期的に行っているが、なかなか利用者へと反映させていくことが難しい。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を大切に、安心して医療が受けられるようかかりつけの病院へ受診を行っている。	連携している訪問看護事業所が入居者の状況をかかりつけ医に報告し、受けた指示を連絡してもらう事もあるが、日頃の状況を把握している職員が医療機関受診に同行し、受診内容は随時家族に連絡している。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の様々な変化等を訪問看護師に報告を行い、指示を仰いでいる。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際、安心して治療できるよう入院中も利用者に接する機会を多く持ち、また御家族等とも密に連絡を行うように努めている。退院時には、情報の共有を行い、その後の介護に繋げるように努めている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	出来る限りホームで過ごしていただくが、重度化した場合は家族と話し合い、要望に応えられるよう努めている。必要な場合は、かかりつけ医と話し合いを行っている。	現在まで1名の方を看取っている。ホームでの看取りを希望していた家族のなんとか生きてほしいとの意向で、母体医療機関に搬送した経緯もあり、管理者は入居者や家族の意向を重視しながら関わる予定である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、訓練等は行ったが、定期的には行っておらず、実践力が十分に身につけているとは言い難い。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災の訓練は行っているが、その他の災害の訓練は出来ておらず、地域との協力体制も十分ではない。	消防署の指導での訓練では、各職員の所属するユニットではなく、火災発生場所に近い入居者の避難誘導を優先するように指導を受けている。緊急時は近隣の母体医療機関の職員の応援はあるが、今後は地域ボランティア団体や地元消防団に協力をお願いする予定である。かたパン、缶詰、水、安全シート、応急処置セット等を備蓄している。	昨今の自然災害の状況から、地域ボランティア団体や地元消防団との連携を期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人ひとりの誇りやプライバシーを損なうような言動、行動を慎むように努めている。	下げ膳や内服薬に関する職員の声かけは丁寧で穏やかであった。特に視線を合わせながら対応する職員もあり、日頃から接遇に関する話し合いの成果が伺えた。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が希望を表に出せるよう、またそれを自己決定出来るように働きかけている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしい暮らしが出来るように、なるべく希望に沿えるよう努めている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみには気を配り、その人らしいおしゃれが出来るように配慮している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみの一つとなるような支援は行っており、食べやすい形や量に配慮している。後片付け等については出来る方には行ってもらっている。	咀嚼や嚥下状態に応じた食形の食事をゆっくりと時間をかけて介助したり、食の進まない入居者に声をかけるなど、其々のペースに応じた支援が実践されている。食事を楽しめるように、業者に献立やレシピを委託し、味のばらつきをなくしている。	2部屋の居間を活用し、入居者の心身の状況や支援内容に応じて、テーブルを分け、楽しみながら食事ができる環境づくりを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量に気を配り、確保できるよう努めている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	、口腔状態の把握がきちんと出来るように努めている。週に1回、訪問歯科による口腔ケアを行い、口腔状態の把握をしている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレでの排泄を目指し、定期的にトイレの声掛け等を行い支援している。習慣や排泄パターンの把握を行い個々に応じた支援を行っている。	排泄が自立している入居者もあるが、個々の排泄の回数やタイミング、言動などリズムを把握し、トイレで座位での排泄を支援している。廊下の天井から下げたトイレの矢印を見て、トイレに行く入居者もある。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物に対して工夫を行い便秘予防に努めている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	現在は、職員の都合により決めているので入浴を楽しんでいるとは言えない。	入浴を億劫がる入居者には女性職員が声かけをするなどの工夫で、週3回の入浴を支援している。入居者の能力やペースで洗身や浴槽につかってもらえるケアを目指しているが、職員の腰痛に配慮し、リフトの導入を検討している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣や状況に応じ支援している。様子を見ながら意思表示出来ない方については、午睡や横になってもらう等行い支援している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理表を作成し、きちんと服薬の支援が出来るよう努めている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人にそれぞれの楽しみを見出し支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な外出を行っていないので、これから少しずつ増やしていきたい。年間行事での外出は、これからも続けていきたい。	日頃は、広い園内を散歩したり、設置された椅子に座って外気浴をしたり、園内の桜の花見をしている。年間行事計画に沿って、初詣や花見、下関市の海響館での外食を楽しんでいる。週1回、家族と外出し外食するのを楽しみにしている入居者もあり、表情が豊かになっている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者自身がお金を所持し、自由に使うことが出来ている。訪問販売においてお金を使えることが入居者の楽しみとなっている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者本人が望まれない事もあるが、年賀状や行事の案内ハガキを一緒に作成し支援している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地の良い空間作りを目指し、清潔感を保つようになっている。混乱を招かない様な工夫もしている。	広い敷地内はシンボルツリーが枝を豊かに伸ばし、周囲を生垣が囲み、玄関アプローチに設置された椅子に座ると、周囲の豊かな自然を満喫できる。ホームは木目が暖かく柔らかな雰囲気の木造づくりで、廊下は車椅子が行き交わせるほど広く、洗面所は整理され、清潔感がある。居間の畳敷を板張りにするなど、入居者の状況に応じた設えをしている。夜眠れないと居間のソファで寝た入居者が昼食後もソファで横になるなど、寛げる場となっている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間にはソファやテレビを配置し、入居者が集まりやすいように工夫している。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力を得て、馴染みのある家具等を設置し、本人が安心して過ごせるよう工夫している。	居室入口は入居者名と担当職員名が記載された表札が掲げられ、衣類などが収納できる大きなクローゼットが設置され、入居者の状況に応じて開所以来設置している畳敷きベットを電動ベットに変えた居室もある。持ち込みの家具や日用品が整理され、家族が持参した造花や写真が飾られ、居心地の良い居室となっている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室などに目印をつけ、本人に分かるように工夫している。		